

「はじめに」

11月となりました。館内展示も「ハロウィン」から「実りの秋・食欲の秋」へと変わりました。司書の方々が工夫を凝らし、季節にあったオススメ本を展示紹介してくれていますので、お時間のある時、足を運んで下さい。

もう一つお知らせがあります。11月1日より、コミックの貸出しを始めました。今までは館内で読んでもらっていましたが、これからは自宅に持ち帰りじっくりと読むことができます。数は多くありませんが、案外楽しい作品、揃っています。正面にドーン！と展示紹介していますので、こちらも興味ある方はぜひ、ご利用下さい。

新着図書を紹介

9月から11月の新着図書から選んでご紹介します。

ほかにもいろいろな本がありますので、ぜひ図書館で見てください！



『リサーチのはじめかた』

トーマス・S.マラニー／著 002.7-マ

そもそも問いてなんだっけ？

「研究はとても楽しい。ひとつには、少なくとも理屈の上ではなんでも研究できるからである。しかし、だからこそ人は途方に暮れてしまう。いったいどこから始めたらいいのだろう。その答えはこうだ—まさにいま、きみが立っている場所からだ」(本書「はじめに」より)。

自分にとってほんとうに重要な問いをどうやってみつけるか、その問いを他人と共有するためにはどうすべきか、〈自分中心の研究〉を楽しくおこなう方法が、演習問題を交えて書かれている。大学での学びを考えたとき、「やりたいこと」を形にしたいときにガイドブックとして役立ててほしい一冊。

『15歳からの社会保障』

横山 北斗／著 364-ヨ

人生のピンチに備えて知っておこう！

家族、学校、お金、仕事、住まい、体調…。生活の困りごとに対応するための社会保障制度。困ったとき、どこに相談すればいいのか、何が助けてくれるのか、事例ごとに物語仕立てで紹介されている。

日本には色々な社会保障制度があるけれど、その制度を使うためには申請をしなければ使えない、つまり黙っていても誰も助けてくれないということ。知っておくことが、あなたや大切な誰かの力になる。

『温かいテクノロジー』

林 望／著 548.3-ハ

その進化は、人間を見つめているか

“ロボットを開発することは、人間を知ることだった”。世界初の家族型ロボット「LOVOT(らぼっと)」の開発者が、これまで描かれていた生産性偏重の無機質な未来とは異なる、「温かいテクノロジー」と人類が共生する世界線について語る。

『野球短歌』

池松 舞／著 911.16-イ

短歌の力って、すごいかも。

—いつまでたっても阪神が勝たないから、短歌をつくることにしました— 2022年の阪神戦を軸に、野球を愛する苦しさや幸せを詠み続けた全313首を収録。「さっきまでセ界が全滅したことを私はぜんぜん知らなかった」「サードから本塁までが遠すぎて半日かけてもたどりつけない」

阪神ファンでなくても、野球を知らなくても、何かを、誰かを応援している人なら共感できる。これが短歌の持つ表現の力!? 何はともあれ優勝おめでとうございます。

『リスペクト』

ブレイディみかこ／著 913.6-ブ

暮らしこそ政治の場なんだ。

ホームレス・シェルターに住んでいたシングルマザーたちが理不尽な理由で退去を迫られた。女性たちは連帯して立ち上がり…。

2014年にロンドンで実際に起きた占拠事件をモデルとした小説。

『失われたものたちの本』

ジョン・コナリー／著 B933.7-コ

美しくも残酷な物語の世界

赤ずきんが産んだ人狼、醜い白雪姫…。

本を愛する少年が迷い込んだのは、おとぎ話の登場人物や怪物がうごめく異世界だった。謎と困難に満ちた旅路と少年の成長を描く異世界冒険譚。宮崎駿監督の映画『君たちはどう生きるか』のストーリーに影響を与えた物語。

『語学の天才まで1億光年』

高野 秀行／著 804-タ

語学×探検×青春!

インドで身ぐるみ剥がされ英語が上達、麻薬王のアジトでビルマ語学習…。学んだ言語は25以上。辺境ノンフィクション作家の超ド級語学体験記。語学上達のヒントも満載。

『この夏の星を見る』

辻村 深月／著 913.6-ツ

離れていても空は一つだから、 同じ星を見られる

コロナ禍による休校や緊急事態宣言。これまで誰も経験したことのない事態の中で、大人たち以上に複雑な思いを抱える中高生たち。しかしコロナ禍ならではの出会いもあった。リモート会議を駆使して全国で繋がっていく天文部の生徒たち。彼らが立てた計画とは？

『口訳 古事記』

町田 康／著 913.6-マ

神様たちが大阪弁で大活躍!

イザナキとイザナミの国生み、アマテラスの「天の岩屋」ひきこもり、何度も殺されては甦ったオオクニヌシの国作り…。奔放なる愛と野望、裏切りと謀略にみちた日本最古のドラマの画期的な口語訳。

『世界でいちばん透きとおった物語』

杉井 光／著 B913.6-ス

電子書籍化、絶対不可能!?

“紙の本でしか体験できない感動! 衝撃のラスト、ネタバレ厳禁”。諷い文句でそう書かれると、ミステリ好きとしては読んでみたくなるもの。有名なミステリ作家が急死し、その子供である主人公は、事情があり一度も会ったことがない父が最後に書いたはずの「世界でいちばん透きとおった物語」の原稿を探すことに。

謎の答えにどこで気づけるか、そして紙の本だからこそその仕掛けとは? 一気読み必至です。

新書を読もう！



学校図書館には新書のコーナーがあり、シリーズごとに分類されています。新着図書にも毎回入っているのので、おすすめをリストアップしました。

ちなみに、新書というのは「新しい本」ではなく、新書版というサイズの本を指します。シリーズで統一されたデザインで文字だけの表紙も多く、シンプルで地味な感じもありますが、内容は多岐にわたります。

新書の特徴として、専門分野の解説や入門書的なものとして刊行される、ひとつのテーマについて掘り下げている、ということがあり、特定の分野の知識をまとめたり、深めたりするのに役立ちます。専門家ではない人向けに書かれた読みやすい学術論文といった形のものも多いので、論文形式の文章をあまり読んだことのない人は新書から慣れていくと良いと思います。

興味のあるテーマからまず1冊読んでみてはいかがでしょうか。

書名	著者名	新書シリーズ名	請求記号
日本人が知らない戦争の話 アジアが語る戦場の記憶	山下 清海	ちくま新書	S 210.74-ヤ
ウクライナ動乱 ソ連解体から露ウ戦争まで	松里 公孝	ちくま新書	S 238.6-マ
ランキングマップ世界地理 統計を地図にしてみよう	伊藤 智章	ちくまプリマー新書	S 290-イ
ケアシケアされ、生きていく	竹端 寛	ちくま新書	S 361.4-タ
はじめてのフェミニズム	デボラ・キャメロン	ちくまプリマー新書	S 367.1-カ
トランスジェンダー入門	周司 あきら	集英社新書	S 367.9-シ
「よく見る人」と「よく聴く人」 共生のためのコミュニケーション手法	広瀬 浩二郎	岩波ジュニア新書	S 369.27-ヒ
10代の脳とうまくつきあう	森口 佑介	ちくまプリマー新書	S 371.47-モ
大学マップ 特色・進路・強みから見つけよう！	小林 哲夫	ちくまプリマー新書	S 377.21-コ
植物に死はあるのか 生命の不思議をめぐる一週間	稲垣 栄洋	SB 新書	S 471-イ
動物がくれる力	大塚 敦子	岩波新書	S 645.6-オ
スポーツの価値	山口 香	集英社新書	S 780.4-ヤ
言語の本質 ことばはどう生まれ、進化したか	今井 むつみ	中公新書	S 801-イ
悪口ってなんだろう	和泉 悠	ちくまプリマー新書	S 801.0-1-イ
世界が広がる英文読解	田中 健一	岩波ジュニア新書	S 837.5-タ
源氏物語入門	高木 和子	岩波ジュニア新書	S 913.36-タ

図書館活用のすすめ その2

今回は高校生の皆さんが調べ学習に使える図書館を2館、ご紹介します。
「東京都立多摩図書館」と「国際子ども図書館」です。どちらも個人に向けての
図書の貸出は行っていませんが、調べものをしたいならおすすめの図書館です。
機会があれば、休みの日を利用して出かけてみてはいかがでしょうか。
ぜひ、各館のホームページもチェックしてみてください。
ホームページからも調べ学習に役立ついろいろな情報が得られますよ。



東京都立多摩図書館

中央線の西国分寺駅から徒歩5分ほどの場所にあります。都立図書館は六本木に中央図書館もありますが、多摩図書館には中高生世代向けの本や雑誌を集めた「青少年エリア」があるのがおすすめポイントです。様々なジャンルの本がそろっていて、開架になっているので実際に手に取って試みることができます。進路についての資料がまとまった「キャリアデザインコーナー」や「英語多読棚」、レポート作成に役立つ本を集めた「学習応援棚」などがあり、中高生専用の閲覧席やグループ学習で利用できる場所もあります。レファレンス専用の窓口もあるので調べものの相談もできます。また、こちらの図書館は雑誌のコレクションが特徴で、開架に現在刊行されている雑誌がずらりと並んでいるのは圧巻です。



国際子ども図書館

上野の東京国立博物館のそばにあります。国内唯一の国立の児童書専門図書館で、国会図書館の分館のような位置づけです。こちらは手続きなど不要で誰でも自由に利用でき、絵本や児童書が並ぶ部屋や展示フロアもあり、本の博物館のようです。明治時代に建てられた旧帝国図書館が原形保存で使われており、建物の見学だけでも訪れる価値あり、です。2階にある「調べものの部屋」は中高生向けの資料室で、調査やレポート作成に役立つ資料を中心に約1万冊を開架しています。自習席はありませんが、図書館で本を探す方法や検索の仕方、データベースの使い方など基本的なことの解説展示があり、調べ学習のスタートにおすすめです。レファレンスカウンターで質問も受けられます。

「編集後記」

「読書週間」と言うことで、新聞等では様々な読書に関する記事や企画が掲載されました。一例ですが「読売新聞」は10月27日の社説で街の本屋さんの減少を取り上げていました。学校帰りにふと立ち寄れる本屋さんがあるのはありがたいことですが、部活動に所属している生徒諸君にとっては、帰宅時は体はクタクタ、お腹はペコペコ状態でしょうから、本屋さんどころではないというのが現状でしょう。高校生は忙しい！！その中でどう時間を作っていくか？

「〇〇週間」が設置されている目的は、「時々自分の生活を見直してみませんか」という所にあるのかも知れません。